

有害金属対策 基礎調査事業を加速 環境省



環境省は、水銀や鉛、カドミウムなどの有害金属対策策定に向けた基礎調査事業を加速する方針を発表しました。国連環境計画(UNEP)でこれら有害金属の環境・健康影響や長距離移動に関する本格的な検討が、この数年の間に始まったことを受けて、2006 年度から離島での環境監視や、製品中の含有量調査、焼却炉からの水銀排出測定などに着手していましたが、このなかで 07 年度からは製品中の含有量調査、マテリアルフロー把握・排出インベントリ策定のための基礎調査を本格化し、調査対象の拡大や詳細データの収集を図ります。先ごろ開かれた専門検討委員会にて、その方針案が示されました。

有害金属対策での基礎調査は、2005 年度から予備調査を開始し、06 年度からは「有害金属対策策定基礎調査専門検討会」を設けて五カ年計画を始動させました。これまでに実施した製品の含有量測定は、プラスチック類を多く使っている製品などを選定し、家電、情報通信機器、日用雑貨など 8 カテゴリーに分類し、収集・廃棄品を調査しました。RoHS 指令対象の水銀、カドミウム、鉛、クロムほか、銅、ニッケルなど 18 物質を測定項目に蛍光X線分析を行ったところ、134 検体中、カドミウムが 6、鉛が 12、クロムが 12、臭素が 11 検出されました。検出のあった試料については質量分析計などにより精密測定を行う予定です。07 年度は、有害金属の代替・使用削減を行うべきケースについて文献調査、ヒアリングにより本格的な調査計画を策定する予定です。選定された製品について 06 年度同様にスクリーニング、精密測定を行う計画で、対象製品の種類拡大も検討されています。

一方、排出インベントリ作成の基礎調査では、水銀の大気排出量の約半分が医療系廃棄物からと推定されているため、同廃棄物の焼却施設から出る排ガス、排水、灰などで水銀濃度が調査されました。07 年度は、サンプリング手法などを十分に検討したうえで、他の発生源も含めた排出量・削減技術調査が行なわれます。また、マテリアルフローの把握は、06 年度は貿易統計などによって輸出入、リサイクル量、国内需要量などが調査されましたが、年による変動幅が大きくその他用途の内訳が不明であったため、海外の文献も参考に詳細なデータを収集し、マテリアルフローの精緻化を図るとともにインベントリの原単位を作成する予定です。とくに水銀については取扱企業に対するアンケート、ヒアリングなどを行い、実態の把握を進めます。環境省では、製品中の含有量測定やインベントリ作成と合わせ有害金属への対応を強化していく方針です。

当社では RoHS 規制 6 物質を始めとする、有害物質の分析に実績があります(精密分析・スクリーニング分析のどちらにも対応致します)。ぜひお気軽にお問い合わせ下さい。

資料 2007 年 4 月 2 日付 化学工業日報

機器分析箇所 有賀久枝